

アイスホッケー競技における競技環境に関する研究 ～高等学校までの競技環境に着目して～

田中 鉄也 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員：佐々木 直基

キーワード：アイスホッケー 競技環境 競技成績

1. 緒言

現在日本のアイスホッケーの競技レベルは世界で高いとは言えるレベルではない。そして、国内での競技レベルの分布も、東日本は比較的レベルが高く、西日本はレベルが比較的低くなっている。この要因として、出身地と競技環境の差が関係していると考えられる。東日本に競技力が偏る要因として、出身地と競技環境の差が関係していると考えられる。

そこで本研究では、上記の要因を踏まえて、出身地と競技環境（特に高等学校まで）が競技成績や選手の競技レベルにどのような影響を与えているのか、また、指導者の現役中の競技環境が指導にどのような影響を与えているかを明確にすることを目的とする。

2. 研究方法

アイスホッケー関西学生リーグ（1部リーグ）の大学に所属する選手とその指導者を対象とした質問用紙を用いてアンケート調査を行い、選手の経験から競技環境の違いについて検討する。

質問項目には、出身地、競技歴、1週間の氷上練習日数と時間（シーズン中とシーズンオフ中）、年間試合数、過去の競技成績、競技環境に対する意見などの項目を入れる。

3. 結果と考察

今回のアンケート調査により、競技歴・

アイスホッケー以外の競技経験・一週間の陸上練習日数の項目から両出身者の違いを読み取ることはできなかった。競技歴に関しては、今回関西学生リーグの1部リーグに所属している選手を対象としたために、ほとんどの選手の競技歴が長く、同じようなデータしか収集できなかったのが原因であると考えられる。一方で、最高成績・年間試合数・一週間の氷上練習日数・競技環境に満足しているかの項目からは、両出身者の競技環境の違いが明らかに表れていた。年間試合数・一週間の氷上練習日数が多い選手ほど最高成績が良く、競技環境に満足している選手が多かった。

4. まとめ

競技環境が競技成績に影響を与えていることが分かったが、それを現実的に日本の競技環境の整備や競技力向上、指導者育成につなげるために、まず国からのバックアップが必要である。現在計画されているスポーツ省の確立も期待されている。また、オリンピック出場を叶えるために日本代表チームへのバックアップも必要になる。

参考文献

現代体育・スポーツ体系第, 24巻, サッカー・ホッケー・アイスホッケー, pp202-255
文部科学省, 平成21年度文部科学白書